

## 第1回学校の在り方地域懇談会議事録（八街北中学校区）

期　　日 令和7年8月20日（水）

開会 午後2時05分

閉会 午後3時50分

場　　所 八街北中学校 視聴覚室

参 加 者 敬愛大学 中村教授  
秀明大学 渡部教授  
八街北中学校 校長  
朝陽小学校 校長  
八街北中学校学校運営協議会 会長  
朝陽小学校学校運営協議会 会長  
藤の台区 区長  
藤の台区 区長代理

傍 聴 人 なし

### ○事務局

配付資料について確認後、次第に沿って会議を進行

### ○教育長

（教育長挨拶）

### ○事務局

つづきまして次第3の自己紹介に移ります。

懇談会は今年度2回の開催を予定しておりますが、今回が初めての会議となりますので、自己紹介をお願いしたいと存じます。

（中村教授から時計回りで自己紹介を実施）

今回の会議は懇談会であるため、規約等はございませんが、会議の進行を円滑に行うため、敬愛大学の中村教授に座長を、八街北中学校の本間校長に副座長をお願いしたいと思います。

次第4の議題に移りたいと思いますので、これより先の議事進行を中村座長にお願いしたいと存じます。

### ○座長

議題（1）小中学校の現状と課題について、各学校から説明いただく前に事務局から八街北中学校区の概況について説明していただければと思います。

### ○事務局

『八街中学校区における児童・生徒数の推移』に沿って、八街北中学校区の概況について説明。

○座長

ありがとうございました。

それでは、この状況につきましては、ご質問等があれば後でお受けしたい思います。

続いて、各学校の現状と課題について、朝陽小学校、八街北中学校の順にご説明いただきたいと思います。

初めに、朝陽小学校の校長先生、よろしくお願ひいたします。

○朝陽小学校長

資料『各小中学校の現状と課題【八街市立朝陽小学校】』に沿って、朝陽小学校の現状と課題について説明。

○座長

ご説明ありがとうございました。

朝陽小学校の状況についてご説明いただきましたが、もう少し聞いてみたいとか、質問事項があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか

○委員

セーフティプロモーションスクールの認証は、事故が原因となって交通安全に注視した結果として認証を受けたのでしょうか。

○朝陽小学校長

事故がきっかけの1つであったことは間違いないですが、交通安全だけではなく、災害安全や学校生活における安全の取組が対象となっており、教育委員会から全校に案内があった中で申請を行ったものです。

○座長

他に御質問等がなければ、朝陽小学校学校運営協議会の会長から補足等があればお願ひいたします。

○委員

私は朝陽小学校出身なのですが、その頃と比べると児童数がかなり少なくなっていると感じています。

セーフティプロモーションスクールについては、学校の外だけでなく、学校の中でも怪我が多い状況を知り、校舎内の曲がり角にはカーブミラーを付けたり、右側通行を徹底するために矢印を付ける等、気をつけないといけないことが一目瞭然になるように、子どもたちが自ら考えて取り組みました。朝陽小学校に通っている子どもたちは、高学年に限らず1年生から6年生まで安全に気をつけて楽しく学校生活を送っています。

○座長

校長先生は、児童生徒が減少したことについてメリットとデメリットを両方挙げておられるかと思います。

児童生徒が減少することについて、児童同士の関係、あるいは児童と先生の関係が固定化されやすい状況がある反面、一人一人の児童を深く知ることができ、きめ細かく対応できる、そのようなメリットとデメリットを挙げていただいています。

このことについて、保護者の立場から、どのような感想をお持ちなのかお聞かせ願えればと思います。

○委員

長らく P T A の役員として関わらせていただいていますが、児童数が減るということは当然家庭数も減っているため、P T A の活動資金も減ってきてることが学校運営の観点から懸念されます。P T A の活動資金が減ることで、こどもたちのためにやってあげられることが縮小傾向になり、そのような状況の中、コロナ禍となったので、P T A 活動が完全になくなってしまうレベルまで停滞し、その後、再起に向けて色々やってきました。そのような経験も踏まえて、やはり児童数が多いに越したことはないと感じています。また、1 小 1 中という環境の中、小学校 1 年生から中学校 3 年生まで同じメンバーで過ごすことになるので、こどもたちはとても仲が良く、他の地域に比べると揉め事が少ないと思いますが、どうしても馬が合わない子もいますのでクラスを分けられると良いなと感じたことはあります。

○座長

ほぼ小中一貫校で 9 年間をみないといけないですからね。

保護者の目線から朝陽小学校学校運営協議会会長はいかがですか。

○委員

娘が小学校 5 年生でクラス替えがあった際に、あの子と一緒にクラスなのは嫌だと言っていたことがあります、一人でもいいから信頼の置ける友達がいれば学校生活が楽しくなるんじゃないのと促しました。

こどもが少なくなれば、多くの友達と一緒に学べなくなりますが、人数が少ないほど、教室を広々と使うことができ、先生も一人一人よくみてくださっているので、こどもが多いから良い、少ないから良いとはどちらも言えません。現状に関しては、こどもたちはよくみてくださっており、何不自由なく学ばせていただいていると感じています。

○座長

ありがとうございます。その他に、地域の見守り活動について、地域の高齢化が進む中で組織立った活動が難しくなってきているとのお話もありましたが、その点に関して藤の台区区長さんはいかかでしょうか。

○委員

以前は小中学校に通うお子さんが多かったので、クリスマス会や夏祭等の行事を行っていましたがコロナ禍をきっかけにそれらの行事はなくなってしまいました。

地域では、高齢者が増えているので、集会所で福祉器具の講習を行いたいと思っていますが、そこにキッチンカーを呼んで、地域のこどもたちにも楽しんでもらいたいと考えています。

○委員

自治会に加入している方がだいぶ少なくなってきたということで、最新の広報やちまたのトップ記事で自治会への加入について呼びかけておりますが、こども役員を設けてこどもたちが自分たちで考えて自分たちで運営していくような取組があつても良いのかなと思います。例えば、藤の台区にはいくつかの公園がありますが、ボール遊びや騒ぐことが禁止されています。公園でボール遊びをするためにはどうしたら良いか、騒ぐのはどこまでが許容範囲なのか、こどもたちに話し合ってもらい、自分たちで実施してもらう、そのような取組があつてもよいのではないかと思います。

先日、開催された「八街市まち・ひと・しごと創生本部有識者会議」に出席した際に、朝陽小学校の児童は自分たちで考えて行動しているんだといった話を社会福祉協議会の会長がおっしゃっていました。

我々自治会だけでなく、学校にお願いしないといけない部分もあるかと思いますが、3年、4年先を見据えて、今何をしたら良いかを考えていった方がよいと思っています。

○座長

本日の会議資料のデータを見てみると大変衝撃的で、10年後には八街北中学校の児童数が100人を下回る状況が見込まれており、そのような状況の中、地域との交流や地域の皆様方の支えは、学校教育において不可欠ですので、貴重なご意見をありがとうございます。

それでは、中学校の様子も聞いてみて、色々とご意見をいただければと思いますので、本間校長先生、よろしくお願ひいたします。

○八街北中学校長

資料『各小中学校の現状と課題【八街市立八街北中学校】』に沿って、八街北中学校の現状と課題について説明。

○座長

ありがとうございました。

只今の説明に対して質問等があればお受けしたいと思います。

質問等が無ければ、私の方から1つ質問いたします。

1小1中でよく連携が取れているということで、小中一貫でこういうことは指導していきましょうとか、共通して取り組んでいることはあるのでしょうか。

○八街北中学校長

八街市全体もそうなのですが、授業の流れについては、課題の提示の仕方とまとめ方を統一しています。

また、どちらかと言うと朝陽小学校が八街北中学校に寄せててくれていると思いますが、身だしなみについて、中学校への進学や社会に出た後のことにも考えて指導してくれています。

○座長

もう1点、よく言われるギャップの問題、小学校と中学校の接続の問題について質問させてください。八街市内の別の中学校区では、こどもたちが複数の小学校から中学校に進学して、その内、ある特定の小学校の子が中学生になって長欠になる傾向にあるというお話がありました。1小1中の環境だと接続の問題はかなりクリアされているのでしょうか。

○八街北中学校長

小学校と中学校の接続が課題で長欠につながったという子はいないと思います。

○朝陽小学校長

本当に同じ関係のまま、小学校から中学校へ進学していくので、中学生になったから急に態度が変わるようなことはないです。こんなで良いのかなと思うくらいこどもっぽい部分があります。

○座長

それはこの地域の良さであるわけなので、生かしていければよいのかなと思います。

今、お話をいただいた小中が連携した教育活動について、保護者の目線からはいかがでしようか。

○委員

P T A役員に恵まれ、こどもたちのために何かしてあげたいという同じ想いの保護者が集まってくれているので、小中一緒に何かやりたいという気持ちはこどもたちにも先生方にも伝わっているのかなと思います。

○座長

ある面では、地域の子は地域で育てるという教育をやりやすい地域だと思いますが、その点についていかがでしようか。

○委員

話が少し逸れるかもしれません、こどもを増やすために市としてどのようなことに取り組んでいるのか、見えてきてないなと思っています。

実際にこのような状況は千葉県だけでなく、全国的にも同じような状況だと思いますが、中にはこどもが増えている自治体もありますよね。

○座長

少子化については、どの地域でも多かれ少なかれある問題ですが、まちづくりに直結している問題であるわけです。

例えば、流山市は6年生は1, 2学級なのに対し1年生は20学級くらいあるような人口急増地域があると聞いておりますが、その反面、外房方面の東上総地域は8割位の小学校が1学年1学級というような状況になっており、八街市だけが避けて通れる問題ではないというのが事実だと思います。

市の方も少子化を食い止めるための方策を色々と考えているんだろうと思いますけども、国でも少子化対策の政策は中々うまくいってないというのが現状です。

渡部先生から何かあればお願ひします。

○秀明大学 渡部教授

こどもを中心にまちづくりをどのように進めていけばよいのかが、1小1中という形であったことによってハッキリとわかつてきただい例なのではないかと思ってお話を伺いました。

ただ、先々を見ていくと学校規模が縮小していくことが想像できるので、長期的展望で持続可能な取組として何ができるのかを我々はもっと知恵を絞っていかないといけないのかなと思った次第です。色々な問題が関わってくると思いますが、長続きしていくことで、この地域で育ったこどもたちが親になり、自分たちのこどものために何ができるのかというところにシンクロしてくるのではないかと思います。

○座長

本日の懇談会の前半は、学校の現状と課題ということ、また、学校としても地域と一緒にになって何か工夫してできることはできないかということで色々とお伺いさせていただきました。

開始から1時間経過しておりますので、ここで10分間の休憩といたします。

(休憩 10 分間)

○座長

再開させていただきます。

懇談会の後半は、八街市的人口推計と他の地域の取組状況について事務局から説明があります。

それでは、議題（2）児童生徒数の推計について事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料『八街北中学校区における児童・生徒数の推移』に沿って説明。

○座長

ご説明ありがとうございました。

令和14年度の1年生までは、住民基本台帳上の人数を社会増減を加味して学年進行させた推計値ということですので、そんなに間違いない数値なのかなと思います。

改めて表にしてみるとこののような状況だということですが何か質問等はございますか。

なければ、議題の2を終了して、議題3県内市町村の取組事例について、事務局から説明をいただきたいと思います。

○事務局

取組事例の資料に沿って説明。

○座長

ご説明ありがとうございました。

取組事例3の分校に関してはともかくとして、取組事例1と2についてはこの地域のこれからを考える上で参考になる事例なのかと思います。

少し補足させていただきますと、併設型というのは同じ敷地の中に小学校と中学校を設置して、その両方が連携した小中一貫教育をしよという取組になります。

どのようなメリットがあるかといいますと、中学校は規模が小さくなっていますと教科指導の面で全ての教科の先生がいないという状況が生じ得るので、例えば、小学校の先生に美術や技術を教えていただく代わりに中学校の先生が英語を教えるといったように、小学校と補完し合い、職員の交流も図りながら、よりよい教育をしていくこうという考え方になります。

一方で、義務教育学校というのは学校教育法で位置付けられた新しい学校で、9年制の学校になります。小学校6年生と中学校1年生という区分ではなくて、1年生から9年生までが1つの学校の中で勉強しているというような学校で、小学校と中学校の接続の問題が非常にクリアになるというメリットがあります。デメリットとして稀に聞く話ですが、小学校の卒業式も中学校の入学式もないのが寂しいと保護者の方がおっしゃることがあるそうです。

取組事例1と2の事例について、ご意見を伺えればと思いますがいかがでしょうか。

○委員

取組事例2について質問なのですが、小学校の教員と中学校の教員の資格は同じなのでしょうか。義務教育学校の場合、教員の住み分けはどのようにになっているのか教えてください。

## ○事務局

小学校の教員と中学校の教員の資格は別なのですが、成田市の取組事例においては、全ての教員が小学校と中学校の両方の資格を持ち合わせており、どちらも教えることができる環境をつくっているとのことです。一般的に小学生にあたる5、6年生については、教科担当を決めて中学校の教員資格をもった先生が教えています。

## ○教育長

少し補足説明させていただきますと、小学校の先生方で中学校の教員免許を持っている方は比較的いらっしゃいますが、中学校の教員で小学校の免許を持っている方はあまりいらっしゃいません。しかしながら、中学の免許を持っている方で、例えば社会や理科の免許を持っている方は、小学校の社会や理科だけであれば授業を担当できることになっています。下総みどり学園の事例では、たまたま全員が小学校と中学校の両方の資格を持っているとのことですが、県内の他の学校では、両方の資格を持っている方ばかりではありませんので、小学校と中学校が接続する学年では、お互いの教員が教えながら、ほとんどの場合、小学校の教員は小学校で、中学校の教員は中学校で指導する状況になっています。

## ○座長

小学校の高学年位からは、担任の先生が全教科を教えるのではなくて、中学校の免許を持っている専門の教員が担当する授業が増えていくようなイメージです。

## ○委員

子どもの部活の関係でこの学校に行ったことがあります、務めている先生にお話を伺ったところ、この学校に来て良かったとおっしゃっている先生が多く、環境がとてもよいのかなと思いました。

## ○委員

先生方の負担が増えるといったことはないのでしょうか。

## ○朝陽小学校校長

とてもあると思います。今まで学校の教員が少ないと言われている中で、工夫によって何かをやっていくには限界を超えている状況があります。今の状況に何かを足して工夫して何かを生み出すという動きは、管理職としてはやりたくないというのが正直な気持ちです。

小学校における英語の授業を充実させたいといった時に、中学校の教員が小学校へ移動して授業を受け持つのは、休み時間が10分しかないで簡単にはできません。また、授業時間が小学校と中学校では異なり、時間割もズレています。

## ○座長

色々とクリアすべき問題点が多いような感じがしますね。

地域の方々の目線からはいかがでしょうか。

## ○委員

単純に考えると4つの小学校と1つの中学校を1つに統合しているわけで、これだけのことをよくやったなと思いました。他に前例はあるのでしょうか。

## ○教育長

県内では市川市と八千代市が義務教育学校を設置しています。

## ○座長

この規模で統合したというのは、あまり例がないかもしれません。

これからを考えていく上での1つの例として事務局から提示されたわけですが、クリアすべき課題が多い状況であると思います。

それでは、議題3まで終了しましたので、最後に本間副座長よりお話をいただければと思います。

## ○副座長

こどもを中心として何をしなければいけないのかというところを色々な角度から考えていく必要があるなと思いました。

10年後を見据えて、今から考えていいかないといけないと改めて感じたところです。

児童生徒数の推移の説明の中で、八街北中学校区の生徒が八街中学校へ就学区域を変更している話がありましたが、今後、就学区域の見直しも必要になってくるかもしれませんし、色々なことを考えていく必要があるなと感じました。

八街北中学校区のこどもたちのために今できることをやり、そして先々のこどもたちが困らないようにしていくということを一緒に考えていけたらなと思いました。

ありがとうございました。

## ○座長

ありがとうございました。

本日、様々なご意見を伺いながら懇談を進める中で、皆様方から提案がございましたし、課題とされる部分もございましたので、こどもたちにとってよりよい教育環境をつくっていけるように教育委員会において精査していただき、懇談会をもう1回予定しているようですので、更に検討を進めていただきたいと思います。

議題4のその他ですけれども、事務局から何かありますか。

## ○事務局

今年度、学校の在り方地域懇談会を中学校区ごとに2回ずつ開催する予定となっておりますが、2回目の懇談会につきましては、本日いただいたご意見や他の中学校区でのご意見等をとりまとめまして、日時等が決まり次第、追ってお知らせいたしますので、よろしくお願ひいたします。

## ○座長

以上で議題は全て終了しましたので、進行を事務局へお返しいたします。

ありがとうございました。

## ○事務局

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

皆様方からいただきました貴重なご意見や課題等につきましては、第2回目の懇談会や今後の教育行政に生かしてまいりたいと考えておりますので、引き続き皆様方のご協力をよろしくお願ひいたします。

本日の懇談会は、以上をもちまして閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。